

書 燈



(KIITO 三宮図書館・見守りキッズコーナー)

(同・ニッチ (掘り込み型の座席))

電子書籍と紙の本

小椋 あゆみ

令和4年5月より国立国会図書館で新たなサービスが始まった。国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難なものを、利用者自身のパソコン等を用いてインターネット経由で閲覧できる「個人向けデジタル化資料送信サービス」である。今まで公共図書館まで来館しないとできなかったことが、インターネットを通じてどこでも利用できるようになる。本の形で読むことが難しかった資料をこういったサービスを利用することによって活用できるのは、とても有意義なことだと思う。

以前であれば、地方に住んでいるとわざわざ東京の国立国会図書館まで出かけていき、館内だけでしか読めなかった資料が、手元にあるタブレットでいつでも気軽に閲覧できる。デジタル化による図書資料の活用は、目覚ましい進歩を遂げている。

神戸市でも令和3年1月より電子図書館サービスが本格実施された。始まったばかりのサービスであるためか、利用者には電子図書館そのものがあまり理解されていないと感じることもある。カウンターで受付していると、図書館に置いてある本が全て電子書籍化されて読めるのかと喜び勇んで申し込みに来られた方がいた。そうではないとお伝えするとずいぶんがっかりされていた。電子書籍であれば、同じ本を同時に何人でも読めるのではないかと聞かれたこともある。電子書籍がコンテンツごとに著作権処理されているという

ことは、なかなか一般の人には伝わっていないようだ。

電子図書館は、時間も場所も選ばず本を貸出返却できるため、利用者の利便性は大きい。読み上げ機能や文字の大きさを変えられるといった読書困難者向けのサービスも容易に実現できる。図書館員としても、貸出した本が汚れず、利用者が延滞することもない電子図書館は良いこと尽くめのように思えるが、やはりデメリットもある。提供できる資料数が紙の本に比べるとかなり少なく、単価が高い。多くの資料が提供期間や貸出回数に限られていて保存ができない。パソコンやタブレットといった閲覧機器を持っていない人は利用できない。

今のところ図書館で利用するには、紙の本の方がさまざまな面で勝っている。何よりたくさん本が並んだ書架で、多種多様な分野の本をあれこれ選べる体験は、電子図書館の小さな画面では味わえない。ページをめくって、いろいろなサイズ、装丁、印刷の本を触って読むという行為には、デジタル化された書籍では得られない喜びがある。

これからは、電子書籍と紙の本、どちらか一方だけを図書館の資料としていくことはなくなっていくのだろう。コロナ禍で読書時間が増えたとの記事を読んだことがある。便利な電子図書館を入口に図書館の魅力に気づく人が増えてほしいと願っている。

(利用サービス課資料ライン担当係長)

三宮図書館のデザイン・クリエイティブセンター 神戸への仮移転について

総務課担当課長 村井 博之
総務課担当係長 西山 智子

1. 三宮再整備基本構想

神戸市は平成 27 年 9 月に「三宮再整備基本構想」を発表した。その中で「バスターミナルの整備」についての言及があり、平成 30 年 3 月には「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通 5・6 丁目再整備基本計画」が発表された。

三宮図書館が入っている勤労会館もその計画の区画に入っており、図書館を新たに整備するバスターミナルビル内に再整備するという方針が示された。

バスターミナルビル内に入る新三宮図書館についてはこの時期から、検討会の開催や基本計画の策定などの作業を行う一方、新図書館ができるまでの仮移転先についても検討が始まった。

2. 仮移転先の決定

三宮図書館の現状と同程度の蔵書数を確保するためには 500 m²以上の広さが必要であったが、三宮地域にそれだけの広さを確保しようとすると、賃料がかなりの額に上った。そんな中、賃料の負担が少なく、また市の方針として掲げている、ウォーターフロント地域の活性化にも寄与するということが、中央区小野浜町にある「デザイン・クリエイティブセンター神戸」(以下 KIITO) の 2 階部分が仮移転先として選ばれた。図書館の仮移転先となる前は、株式会社フェリシモがイベントスペースとして使用していた場所である。

電車の駅や町の中心地から離れることについては、補完の措置として、地下鉄海岸線三宮・花時計駅前に予約図書自動受取機(システム・ファインドピッカー)と返却ポストの設置を行った。

令和 3 年 3 月に、設計プロポーザルを経て、株式会社いるか設計集団が内装設計業者に選定された。具体的な内装設計に入る際に問題となったのが、KIITO の建物自体が歴史的建造物であり、床の耐荷重の不足であった。現状の蔵書数を少しでも確保し、1 か所に荷重がかからないように、本棚の配置にも工夫して約 7 万冊の蔵書数を確保した。

3. KIITO 三宮図書館の概要

仮移転先は昭和初期に建てられた旧生糸検査所であり、デザイン都市神戸の拠点施設であることから、図書館も建物全体の雰囲気と調和するよう懐かしみを感じられる設えを基調とし、その中にデザイン性に富んだ様々なスペースが配置されている。

プロポーザルにて提示された設計コンセプトは

“さまざまな居場所＝「個」の空間”と“市民同士が自然に交流できる空間”の創出、ワークや調べものなど“多様な利用を許容する図書館”の 3 点からなる。これらに基づき、次のようなコーナーが設けられた。

<個人や少人数での利用を想定>

- ・窓辺デスク
- ・ニッチ(掘り込み型の座席)(表紙)
- ・ネストブース
定員 2 人のブース席。ネストは鳥の巣の意。



<親子や来館者同士の交流>

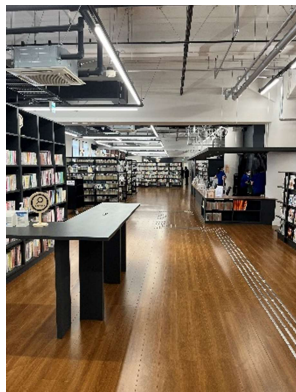
- ・見守りキッズコーナー(表紙)
カーペットコーナーの周囲に座席を配置。親子それぞれが読書をしながら一緒に過ごす。中央に球体本棚。周囲には吸音性能の高いカーテンを設置。
- ・ブックリビング
本棚に囲まれた落ち着いた空間に、ソファや書棚内に造り付けた椅子等数種の座席を配置。小さなイベントも開催可能。

<自習やワーキングのための席>

- ・グループ学習室
少人数での学習利用も可。
- ・Co-Reading ルーム
個人利用の座席とともに参考図書や郷土資料を配置。資料を使った調べもの利用も想定。



メインエントランスを入ると奥行約 100m の空間が見通せる。そして右手にある児童コーナーの黄色い球体本棚が一際目を引く独創的な図書館である。



KIITO 内への移転ということで、デザイン関係の図書を新たに選書し、特集コーナーを作成した。面積は 1,000 m² (エントランス外のギャラリー含む) と、これまでの約 1.6 倍となった。座席数は全 110 席である。こちらも 40 席余り増やすことができた。

4. 休館から開館まで

旧勤労会館の三宮図書館は約 42 年間の歴史を終え、6 月 30 日に閉館した。ほぼ 1 か月に亘る休館に備え、貸出期間の延長を実施。三宮図書館を予約図書を受取窓口利用している方も多いため、広報は予約図書自動受取機の案内等を併せて行った。同機の 7 月の利用は前年同月比で 1.7 倍であった。

三宮図書館の運営を担う指定管理者（神戸新聞・TRC グループ）は、令和 2 年度から移転に備え、プレオープンイベントを実施。勤労会館のロビーで行った三宮エリアの景観を振り返る写真や絵画の展示、KIITO との共催による講演会や謎解きイベントの制作講座等である。これらは移転の告知とともに、期間限定とはいえ新しくなる図書館への期待感を徐々に高めてもらうことを目的としていた。

5. 今後に向けて

令和 4 年 7 月 26 日、「KIITO 三宮図書館」は開館した。開館前に地域に関係する方々やボランティア団体を招いて内覧会を開催した。

午前 10 時の開館後、一般の利用者も徐々に来館された。近所に住むと言う学生の方からは「近所に住んでいるので嬉しい。利用したい」との声をいただいた。夏休み中の開館ということもあり、週末には家族連れや多くの子供たちが訪れている。これまでの三宮図書館は、ビジネスパーソンをメインターゲットしていたが、今回の移転先ではまた異なる利用が予測される。KIITO だけでなく、3 月に開館した「こども本の森 神戸」との連携イベントも今後予定されている。どんな方々にも、この図書館に来ることを楽しみとしてもらえるよう願うとともに、このエリアや KIITO 内になくてはならない存在感を発揮するよう、指定管理者と協力して運営に努めたい。

垂水図書館の移転開館について

村井 博之

1. リノベーション神戸第 2 弾の発表

令和元年 12 月に行われた市長会見において、「リノベーション神戸」の第 2 弾が発表され、その中で、名谷駅前、垂水駅前、西神中央駅前の整備についての言及があった。

垂水駅前については、図書館もその中に含まれ、現垂水駅東駅前広場の東側臨時駐車場の部分に新しい図書館を建設することが発表された。

その中で目的の一つとして、「駅前にシンボリックで街に開かれた図書館を建設することで、人が行き交う街づくり、地域の活性化に貢献する」とされている。

2. 基本方針の策定

令和 2 年 10 月に「新垂水図書館基本方針（案）」を作成した。令和 2 年 11 月には基本方針案に対するパブリックコメントを実施し、31 人から 86 件のご意見をいただいた。また同時期に図書館整備についての地元団体代表者への説明会も開催した。

これらを経て令和 3 年 3 月に「新垂水図書館基本方針」を策定した。

新図書館のコンセプトは「人と本のみならず 生涯の学びを支える情報拠点」としている。

令和 3 年 11 月には駅前東側の再整備計画についての住民説明会を他部局と共同で計 6 回開催し、約 70 名の参加があった。

3. 整備の方針

現在は令和 2 年 10 月に設計プロポーザルによって決定された、フジワラボ、タトミト設計共同体と設計協議を行っており、実施設計の最終段階に入っている。

新図書館の開館は、令和 6 年度末を予定しており、蔵書数は 10 万冊以上、面積は 1,500 m² 程度、座席も大幅に増やすよう設計協議を継続して行っている。



(外観イメージ)
(総務課担当課長)

ーコロナ禍で困難を抱える女性に対する相談支援「神戸市女性のつながりサポート事業」への協力ー

令和3年度9月から3月まで、こども家庭局の事業支援として図書館全館で要望のあった方に生理用品の配布を行った。(利用サービス課担当係長・棟安)

ー「こども本の森 神戸」開館記念イベントー

3月25日開館の「こども本の森 神戸」記念イベントが3月30日に東遊園地で開催され、文化スポーツ局各部署やKIITOが子ども向けワークショップを行った。中央図書館は「空と森のかりっこえほん」と題し、ダンボール製面展台20台に絵本を並べ自由に楽しんでもらったほか、おはなし会を実施、ブースでは「しおりづくり体験」を行い参加者65組(220枚)と盛況だった。(利用サービス課担当係長・間屋)

ー神戸市立図書館公式Twitter (@kobelibrary) 開設ー

より広い世代に図書館や読書への興味を喚起し、図書館利用に繋がるよう、公式Twitterを開設。行事やサービスの案内を中心とした即時性のある発信を各課分担にて行う。4月本格実施。(総務課・西山)

ー令和4年度 春季「読み聞かせびと養成講座」ー

本講座は平成12年度に開講し、当初は主に市民図書室管理者を対象としていたが、平成14年度から対象を全市民に広げた。教育委員会から令和2年度に所管が中央図書館に移ったが、コロナ禍のため令和2・3年度は中止。令和4年度春季講座(5/11～7/1各5回講座)より、引続き一居明子氏、藤澤晴子氏を講師にお迎えし、図書館での再開を果たした。今回は、基礎コース定員20名に対して応募129名、応用コース定員15名に対して応募10名で、それぞれ18名と6名が修了した。(利用サービス課・菊本)

ー自動車図書館(BM)車両事故・代替車両で運行ー

令和4年4月9日に、BM業務の受託者シダックス大新東ヒューマンサービス(株)が、巡回先の北区役所山田出張所付近の公道で車両を移動させる際、左側開閉扉を閉め忘れたまま電柱に接触し、扉を破損させた。そのため4月12日から代替のワゴン車2台に通常の半数の約1,500冊を積載し、巡回した。同月末に修理が完了し、5月から通常通りの運行を再開。受託者には事故再発防止の指導を行った。

(利用サービス課・乾)

ー地域館トピックスー

【みんなの青空図書館】

兵庫区みらい会議において兵庫図書館が企画し、令和3年11月13日に開催した。兵庫図書館のスタッフが相談に応じて本をおすすめする”本の処方箋”等、本にまつわる多様な14ブースを御崎公園芝生広場に開設し、約900名の来場があった。

【名谷図書館開館1周年記念イベント】

令和4年3月24日で開館1周年を迎えた名谷図書館では、ワークショップ「オーナメントを作っただらう！」(3月26日・27日)や児童書展示「1ST HAPPY ANNIVERSARY」(3月23日～4月10日)などの記念行事を開催した。(総務課・谷岡)

ー令和4年度蔵書点検日程ー

中央	6月2日～6月16日	北神	5月25日～5月30日
東灘	5月18日～5月23日	新長田	4月6日～4月11日
灘	4月13日～4月18日	須磨	5月25日～5月30日
三宮	実施せず	名谷	6月9日～6月14日
兵庫	6月1日～6月6日	垂水	5月18日～5月23日
北	4月13日～4月18日	西	実施せず

ー手帳ー

人事	3.31	退職	阪本 和子(利用サービス課長)
			小倉 さつき(利用サービス課資料係)
			秋定 敦(総務課総務担当係長) 再任用
4.1	人事異動	榊井 里香(利用サービス課長) 昇任	
		間屋 晶子(利用サービス課担当係長)	
	(転入)	岡田 宏二(中央図書館長) 再任用	
		中務 雅史(総務課担当係長)	
		廣澤 達也(利用サービス課担当係長) 再任用	
	(転出)	林 泰三(建設局長)	
		荒井 俊明(都市局都市計画課担当係長)	
4.1	会計年度任用職員採用		濱本 雅行(総務課担当係長)
			磯貝 昌輝(総務課総務ライン)
4.20	人事異動	益田 ゆか(利用サービス課市民サービスライン)	
		川村 凜太郎(利用サービス課調査相談ライン)	
		三木 彩香(利用サービス課資料ライン)	
6.1	育児休業代替任期付職員採用		江口 歩未(利用サービス課調査相談ライン)
			阪田 玲奈(利用サービス課資料ライン)
6.30	退職	濱本 雅行(総務課担当係長) 会計年度	
7.1	会計年度任用職員採用		遠周 孝弘(総務課担当係長)
会議	2.9	近畿公共図書館協議会理事会(書面開催)	
	7.7・7.8	指定都市立図書館長会議(神戸市)(書面開催)	
	7.22	近畿公共図書館協議会第1回理事会	
研修	1.26～1.28	文部科学省地区別研修(京都)	
その他	1.17	被害想定及び初動対応確認事項訓練	
	2.22	灘図書館臨時休館(PCB取替に伴う全停電)	
	7.26	KIITO三宮図書館開館(内覧会含)	
工事	・	ブラインド・ロールスクリーン更新(2.7～2.21)	
	・	エルミン窓更新(2.21～3.14)	
	・	4階資料ラインの個別空調化、2号館1,2階FCU空調機更新、5階機械室機器更新等(5.6～7.15)	
		(工事は全て中央図書館)	